第11回 いじめ防止標語コンテスト表彰式

日時 平成30年3月29日　**場所** あいれふホール

いじめ防止標語コンテストは、いじめ防止に向け、児童や生徒一人一人がいじめについて考える機会を創出し、夢や希望をもって笑顔あふれる学校づくりを進めることに貢献していくことを目的として実施されています。

今回は約45万通の全国の小中学生の応募作品から、入賞作品の選考が行われました。福岡市内からは19,627作品の応募をいただきました。受賞作品は以下の通りです。受賞された皆さまおめでとうございます。

小学生の部

賞	学校名	学年	標語
全国賞	内浜小学校	2	なみだがひとつまたひとつこころの中にたまっていく こわれそうなわたしのたからばこ
優秀賞	春吉小学校	4	いじめだめ　みんなやさしい　こころでね
優秀賞	和白小学校	6	おしえてよ、私の人生、罰ゲーム?
PTA推薦賞	飯原小学校	1	大すきなぼくのともだちいじめないで。
PTA推薦賞	那珂小学校	6	「あの子の次はわたしかも。」ダメって言葉が出てこない
いじめゼロプロジェクト賞	馬出小学校	3	みんなが「ポカッ」とする言葉　1人1人　持ってるよ
特別賞	能古小学校	5	にげるなよ！　1人にさせて、どうすると?
特別賞	高取小学校	1	いじめっこをわらわせよう　やさしいきもちになりますように
特別賞	西花畑小学校	2	なんぱしよっと！！　いじめをしたら　いかんぱい！ ともだちはたからものたい！
特別賞	平尾小学校	1	わたしのえがおみんなにうつそう
特別賞	松島小学校	2	おもしろい　名前のよびかた　いじめかも
佳作	今津小学校	1	いやだったよ☆ブランコかわってほしかった！
佳作	福重小学校	6	イジメの間　開けてしまえば　じごく絵図
佳作	高取小学校	5	走りぬけ　いじめをなくす　その道を
佳作	三宅小学校	4	心が重たいよ。なげるボールなげかえせない。
佳作	和白小学校	5	子分じゃない　こき使わないで　わたしのこと
佳作	香住ヶ丘小学校	6	心のね　充電切れたら　もう終わり
佳作	松島小学校	2	むしする自分をむししない。
佳作	松島小学校	3	ことばでも　いたいぎざぎざ使わない
佳作	松島小学校	4	いい人は、やることちがう　みならおお

中学生の部

賞	学校名	学年	標語
全国賞	城南中学校	1	指先で　送った言葉　消えないよ
優秀賞	柏原中学校	1	昨日だけ？　都合のいい時だけ　友達ぶるな！
優秀賞	片江中学校	1	もうやめて　心は言うけど　声は出ない
PTA推薦賞	内浜中学校	2	その言葉　君には冗談　僕には銃弾
PTA推薦賞	次郎丸中学校	1	「見てるだけ」「知ってるだけ」。「だけ」がいじめを広げてる。
いじめゼロプロジェクト賞	横手中学校	1	悲しみの　波から救う　ぼくのふね
特別賞	西福岡中学校	3	見ないふり　いつ僕たちは　変われるの
特別賞	城南中学校	2	「やめようよ」言えない雰囲気　もう　いじめ
特別賞	城南中学校	2	変わるんだ　いじめのLINE（線）は　分かるはず
特別賞	長丘中学校	3	やめよう　自分ファースト　ストップ　見て見ぬふり
特別賞	横手中学校	3	にが笑い　私の気もち　気づいてよ
佳作	内浜中学校	2	ムリをして　周りにあわす　やめようよ
佳作	片江中学校	2	SNSは簡単に使いこなすのに　あの子のSOSなぜ気付かない?
佳作	横手中学校	3	いじめたら　きっといけない　同窓会
佳作	横手中学校	3	いじめって　一種の薬物　始めは簡単　終わりは難関
佳作	野間中学校	1	その爆笑　みんな心から　笑っとるん?
佳作	野間中学校	1	見つけるぞ！　悪口、陰口、聞かずに出口！
佳作	福岡中学校	1	中指は　だれかに立てる　指じゃない
佳作	和白中学校	2	小さな声に耳をかたむけよう　人とのつながりは多数決じゃない
佳作	箱崎清松中学校	3	始めると　たばこと同じ　やめられない

発行所
福岡市中央区天神1丁目10-1
市庁舎北別館
福岡市PTA協議会

発行人
会長 西方俊司
広報委員会

福岡市PTA協議会
ホームページ
http://www.fukuokacity-pta.jp
福岡市PTA　検索

印刷（株）西日本新聞印刷

平成29年度　福岡市PTA協議会

PTA会長・担当副会長 合同研修会

平成30年２月24日、福岡市役所にてPTA会長・担当副会長合同の研修会が行われました。

1．研修会１部は「PTA会計の管理や監査時に守るべきポイント」について教育委員会教育支援部学務支援課長の谷哲哉氏より説明がありました。会計担当だけでなく、会長や担当副会長も会計をしっかり理解し、適切に処理することの大切さを話されました。

2．研修会２部では、実践発表として「心に響くPTA活動」と題して29年度元岡小学校父母教師会会長の渡邊恵子氏が講演されました。
①ご自身のPTA会長として経験した様々な出来事を通して、PTA活動に難色をしめす保護者の多くが、最初の委員決めやPTA活動そのものの大変さを要因にあげている事が分かり、形式的な活動に参加した時の無用感や、やらされ感が問題だと分かったそうです。
②PTAとは子どもが普段接している親の側も勉強して、知識を高めていくための場所であり、家庭と職場以外で学ぶ場所としてPTAが存在しているのではないか？との思いから、PTAを「困難」や「苦難」としてではなく、保護者を育てるチャンスとしてとらえ「有難い」という気持ちで引き受けてみることを提唱されました。
③元岡小学校の取り組みとして、PTAの年間行事予定の仕分けを学校と役員で一緒に行われました。それぞれの行事を【必要】【不要】【保留】に仕分けてみると、行事の目的がはっきりし、やらされ感が減って、学校との協力関係も強くなったそうです。

3．グループ討議ではテーブルごとに、各学校が抱える様々な問題、役員決めの苦労や行事の見直し、今後の在り方について活発な意見交換がなされました。

4．最後に「よりよいPTAにするために」をテーマにディスカッションが行われ、パネリストとして四名が登壇され、様々な課題に対する意見や提言がなされました。

主な提言内容

①委員会活動は前年度から引き継ぎが行われるため、基本的に前年踏襲型であり、仕事が減りません。しかし活動を簡略化しすぎると組織が弱体化して、人材も後進が育たないので、ある程度苦労しながら行うことも必要ではないでしょうか。
②熊本地震発生時の実際の対応などにも関連して、学校を介した子どもと保護者、地域の人々とのコミュニケーションの場所として、PTA活動が機能することが重要となります。またPTAには学校で様々な問題が起きた場合に、一旦受け止めるクッションの役割もあるのではないでしょうか。
③PTA活動は子どものためだけではなく、保護者が成長できる良いチャンスの場です。そしてPTAとは「こども応援団」なのはもちろん、親と子が家庭以外の色々な人と関わり、共に成長していくための「共育」の視点に立った活動を行っていくことが大切なのではないでしょうか。

出演者

大野城まどかぴあ館長
林田スマさん

熊本県PTA連合会前会長
中村慶治さん

29年度元岡小学校父母教師会会長
渡邊恵子さん

西南学院大学
樋口奈々さん

福岡市PTA協議会は、平成30年に創立70周年を迎えます

福岡市ＰＴＡ協議会平成30年度活動スローガン

夢を描こう！！子どもたちの未来のために

～学校・家庭・地域の架け橋づくり～

5月24日、中央市民センター大ホールにおいて、第47回定期総会が開催されました。

はじめに開会行事では、29年度福岡市ＰＴＡ協議会の西方俊司会長が挨拶に立ち、今年度「夢を描こう!!子どもたちの未来のために」～学校・家庭・地域の架け橋づくり～のスローガンのもと、活動目標が語られました。

次に福岡市のＰＴＡ活動にご尽力いただいた団体・個人、また優秀広報紙に対し、各種表彰状ならびに感謝状の贈呈が行われました。

また、多数のご来賓のご臨席のもと、福岡市長代理の小野田勝則こども未来局局長、川上晋平福岡市議会議長、星子明夫福岡市教育長、大谷俊浩教育振興部社会教育課主幹社会教育主事よりそれぞれご祝辞をいただきました。

総会行事では平成29年度事業・活動報告、決算報告並びに監査報告の後、平成30年度事業・活動計画案および予算案が提出され、活発な質疑がかわされた後に無事承認されました。

次に平成30年度役員・会計監査案が提出されいずれも承認されました。

総会行事も無事閉会となり、今年度も引き続き西方俊司会長のもと、30年度の福岡市ＰＴＡ協議会がスタートしました。

あいさつ

福岡市PTA協議会
会長　西方　俊司

日頃より市内各学校にてＰＴＡ活動に取り組まれております皆様方に敬意を表しますとともに、福岡市ＰＴＡ協議会の諸事業に対しましてもご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

本年度の活動は、〝夢を描こう！子どもたちの未来のために～学校・家庭・地域の架け橋づくり～〟をスローガンとして、子どもたちの健全育成の視点に立った活動を展開していきます。

私たちＰＴＡは私たち大人が学びを深める為の社会教育団体であり、生涯学習の場であると思っております。そしてその活動は、子どもたちの教育環境をより良いものにしたいという思いで進めております。

昨今の社会の変化は、子どもたちを取り巻く環境に大きな影響を与えているだけでなくＰＴＡのあり方等についても様々な課題が生じて来ています。このような中で「子どもたちのために」を合言葉にし、一人でも多くの大人が手を取り合って、お互いに学び合い・支え合って・そのネットワークを築いていくというビジョンは、昔も今も、そしてこれからも、決して変わるものではありません。

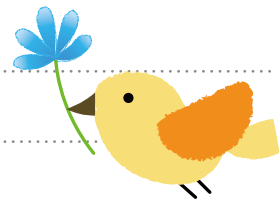
そのビジョン達成へ向かって、私たちは会員同士が今一度、家庭教育の重要さを認識し、お互いの事を理解し合い、足りないところは補い合い、皆で支え合っていくという姿勢が必要です。そういう親の後ろ姿が、子どもたちの手本となり、そこに、本当の教育というものがあるのではないでしょうか。

本年度も多くの会員の皆様方のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

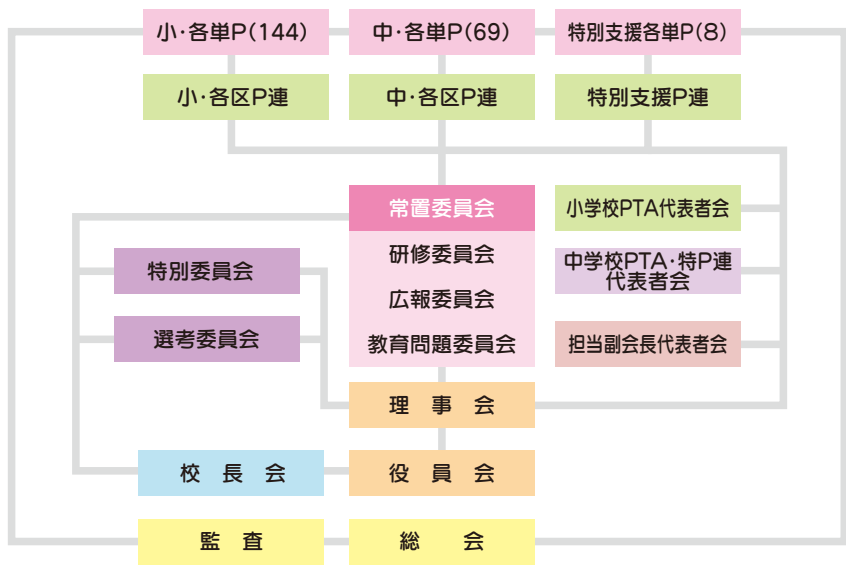
平成30年6月7日

平成30年度　主な事業計画

- ◆役員研修会　平成30年7月6日
- ◆「早寝・早起き・朝ごはん」啓発講演会　平成30年7月10日
- ◆「Stop・ザ・非行　ふくおか」福岡県大会　平成30年8月4日
- ◆親子ふれあいコンサート　平成30年8月20日
- ◆「県下一斉親子ふれあい週間」アンケート実施
- ◆日本ＰＴＡ全国研究大会新潟大会
  平成30年8月24日～25日
- ◆担当副会長交流会　平成30年9月21日
- ◆会長合同交流会　平成30年10月17日
- ◆日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会鹿児島大会
  平成30年10月27日～28日
- ◆特別支援教育啓発研修会　平成30年11月15日
- ◆ＰＴＡ啓発研修大会　平成30年12月13日
- ◆「Knowメディア・チャレンジ！」アンケート実施
- ◆会長担当副会長合同研修会　平成31年2月9日
- ◆福岡市ＰＴＡ協議会創立70周年記念式典
  平成31年2月23日



福岡市PTA協議会・組織図



平成30年度　活動目標

1.家庭の教育力向上を図り、学校・家庭・地域との連携を深める。
2.単位ＰＴＡ及び小・中・特別支援学校ＰＴＡ連合会の活動の活性化を図る。
3.生涯学習の視点に立った研修活動を推進し、会員の資質向上に努める。
4.青少年の健全育成を期して、教育環境・社会環境の整備改善に努める。
5.いじめ問題などについて、自らの問題としてとらえ、課題解決に向けて行動できる児童生徒の育成。
6.ＰＴＡ活動、人権問題や特別支援教育の正しい理解を目指して、啓発活動を推進する。
7.その他関係団体との連携を深める。

福岡市PTA協議会　30年度新役員・理事のご紹介

役員

会長 西方 俊司（能古中）

副会長 加地 富美（福岡中央特別支援）

副会長 川口 三代次（南片江小）

副会長 木村 由美（平尾中）

副会長 古賀 伸彦（高取中）

副会長 篠原 康晃（月隈小）

副会長 張 浩子（東花畑小）

副会長 辻 宗志（今宿小）

副会長 西村 早苗（香椎第2中）

校長会

戎 弥須惠（当仁小）

鈴木 康則（春吉中）

池田 淳（東福岡特別支援）

常置委員会委員長

教育問題委員長 岡村 耕二（城南中）

研修委員長 光安 巌（柏原小）

広報委員長 野上 進太郎（壱岐東小）

常置委員会

教育問題委員会

研修委員会

広報委員会

小学校代表者会

伊嵜 幸宏（中央区 警固小）
亀﨑 健吾（東区 照葉小）
石山 功二（早良区 早良小）
大坪 啓輔（南区 東若久小）
小野 敏生（城南区 堤丘小）
田中 丈太郎（博多区 那珂南小）
淀川 幸二郎（西区 姪北小）

中学校・特別支援学校代表者会

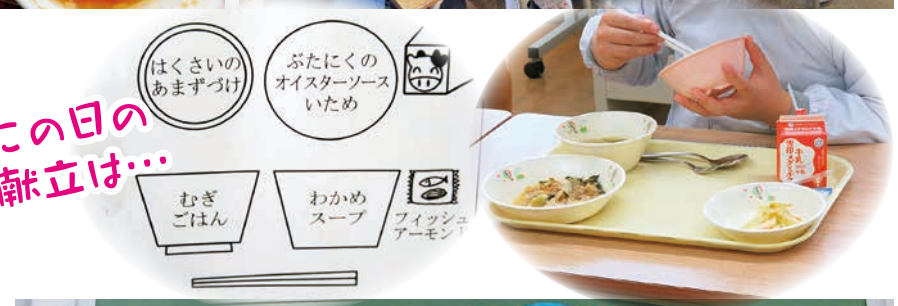
江島 一郎（西区 姪浜中）
山口 信一郎（東福岡特別支援）

田原 典嗣（東区 箱崎清松中）
藤木 寛人（城南区 友泉中）
小松 徹（早良区 早良中）
古川 清文（博多区 住吉中）
齊藤 太（中央区 平尾中）
刀禰 紀恵（南区 花畑中）

担当副会長代表者会

松原 明子（屋形原特別支援）

渡邊 陽子（早良区 次郎丸中）
野田 登美香（博多区 席田中）
髙谷 祐子（城南区 城南中）
西嶋 友美（西区 壱岐中）
田中 奈津江（早良区 早良小）
禅院 幸子（西区 壱岐東小）
大塚 かおり（博多区 東月隈小）
杉本 路（中央区 赤坂小）
杉本 美礼（南区 大池小）
山下 由美（東区 多々良中央中）
川添 浩美（東区 香椎小）
石河 潤子（南区 高宮中）
友枝 佐季子（城南区 田島小）
山田 友紀（中央区 舞鶴中）



みんなで考えよう！！
「食べ残し」について

福岡市教育委員会の給食運営課にお尋ねしました

●食べ残された給食のその後を教えて下さい

つぎ残したごはん→家畜の飼料として再利用

パンとおかず→小学生はほとんど食べ残しがありません。

→中学校→給食センターで回収し、家畜の飼料として再利用

揚げ物に使用した油→ボイラーの燃料や、飼料用油脂として再利用

●食べ残しの計量はされているのですか？

ほとんどの学校で食べ残しの量を計量しています。重さを計ったり、食べ残しを集めた食缶の目盛りで容量を確認したりしています。

●食べ残しを減らす取り組みはされていますか？

給食時間や授業の中で、担任や栄養教諭・学校栄養職員が、成長期に必要な栄養素のこと、食べることの大切さ、食品ロスの問題などを指導しています。食べ残しの多かった献立は、味付けの見直しや組み合わせの工夫などを検討します。

●新メニューは年間どのくらい考えられているのですか？

年間１５～２０くらいの新メニューや、市内産の農水産物を使った新しい加工品などを考えています。中学校の献立では中学校・特別支援学校の生徒がレシピを考えて応募する「学校給食コンテスト」受賞作品が登場します。

●その他の取り組みなどがあれば教えて下さい

児童生徒に身近に地元の豊かな自然の恵みを実感させ、感謝の気持ちをはぐくむことを目的として地産地消を推進しています。家庭配布用の献立表には市内産の食材に◎をつけて、市内のどこで採れているか紹介していますので、是非ご覧ください。

食べ残しの多い献立は、野菜中心の献立や豆料理、煮魚など和食メニューが比較的多いそうです。

子どもたちにできるだけ多くの食材や、料理を味わう食経験をさせることが必要であり、日本の食文化を継承することも大切です。ご家庭でも栄養バランスに優れた和食のよさを伝えていただけたらと思います。

様々な加工品が作られています！

あまおうタルト

弘わかめ

（木），23日（月），
（木）
区板付，南区花畑，
周船寺
老司
西浦
室浜

元岡・周船寺
元岡・今宿
箱崎

を使用するよう
います。

じゃがいも	鹿児島 長崎 熊本
にんじん	福岡 長崎 熊本 鹿児島 佐賀 沖縄 徳島 宮崎 大分
たまねぎ	福岡市 福岡 佐賀 長崎 熊本 鹿児島
しょうが	福岡 長崎 熊本 宮崎 高知
ほうれんそう	福岡市 福岡 熊本 佐賀 長崎
キャベツ	福岡 大分 熊本 宮崎 佐賀 長崎 鹿児島
きゅうり	福岡 佐賀 大分 熊本 鹿児島 長崎 宮崎
レタス	福岡 長崎 熊本 大分 佐賀
セロリー	福岡 熊本 長崎
青ねぎ	福岡市 福岡 佐賀 大分 広島
みずな	福岡 佐賀 熊本
太もやし	大分

安心・安全への取り組み

立入調査

納入前検査

アレルギー検査

使用する食材の安全を確認するため、色々な検査を行っています。

区　分	納入前検査	巡回調査	立入調査	分析等検査	アレルギー検査	放射性物質検査	同一性試験（DNA鑑定）
対象品目	一部生鮮品を除く給食用物資全般	主として生鮮品（肉・野菜・水産煉り製品・豆腐等）	給食用物資全般	給食用物資全般	特にアレルゲン除去を指定している食材	1都16県※で生産された青果	牛肉スライス
目　的	小学校及び給食センターに納入される前に契約物資と同等品であるか、検査をする。	納入された生鮮品が契約物資と同等品であるか、検査及び納入状況の把握を行う。	給食物資を納入している業者・メーカーが、衛生的に製造・管理を行っているかを検査する。	給食物資の品質・安全性及び納入業者・製造業者の衛生管理を検査する。	アレルゲンの微量混入が発生していないか検査をする。	国の監視体制のもと市場に流通する食品は安全と認識されるが、安全・安心のため検査する。	DNA鑑定により、産地偽装や異種肉の混入等を防止するため。
方　法	納入業者に出向き、倉庫・冷蔵庫等に保管されている物資の表示・規格・原材料名・品質・量目等について検査する。	小学校及び給食センターを巡回し、納入された生鮮品の規格・品質等の検査及び納入状況について調査する。	検査員数名で納入業者・メーカーを訪問し、施設や衛生管理の状況を確認し、必要に応じて指導する。	納入前検査をした際、抜き取った物資の規格・細菌・添加物・抗菌剤・抗生物質・残留農薬等について専門業者に検査依頼する。	簡易検査キットと専門機関による検査を併用し、乳・卵・小麦・そば・甲殻類・落花生・ごまの混入がないかを検査する。	ヨウ素131 セシウム134 セシウム137 を検査する。 （検出限界10Bq/kg）	福岡農政事務所から、学校及び給食センターに出向き牛肉100g程度を採取後、持帰り申請された牛と同一であるか照合を行う。
平成29年度 件　数	延べ488件 延べ3,071品目	小学校延べ446件 給食センター延べ45件	延べ74業者	延べ570検体 延べ9,237項目	延べ78検体 延べ423項目	使用が無いため検査実績なし	抜き打ち

※原子力災害対策本部が求める検査対象自治体：17 都県
福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、神奈川県、宮城県、岩手県、青森県、秋田県、山形県、新潟県、長野県、埼玉県、東京都、山梨県、静岡県

学校給食特集

（公財）福岡市学校給食公社
HP アドレス
http://www.f-gk.or.jp/

給食物資選定会

納入する食材料を味・形・香り・色等さまざまな観点から審査を行い決定します。

市P協の役員も、保護者代表として、物資選定会や、献立を決定する献立管理委員会に出席しています。

遠足のおやつも外で食べやすく、子どもたちに人気のあるものを選んでいます

だしとして使うしいたけや昆布、いりこなども、水に戻して、一つ一つの味を確かめます。

バランスのとれた子どもたちの好きなメニューを考えていただいています

学校給食公社には、子どもたちからのお礼のメッセージが飾ってありました♡
おいしい給食をいつもありがとうございます！

姪浜漁協取材（海苔）

“室見川河口沖”知っていましたか？
ここでノリが採れています

寒い冬の深夜、室見川と海の恵みをうけたノリが収穫され、姪浜漁港のタンクに運ばれてノリに加工されます。

地産地消の取組み

能古甘夏マーマレード

切干大根

4月の食材の予定産地（加工品を除く）

○主食
・米飯，米粉パン…福岡県産
・パン（小麦）……カナダ，アメリカ産
○牛乳……九州産
○肉類
・豚肉，鶏肉……九州産
・牛肉 ……主に北海道産

【福岡市内産農水産物】
◎米(ヒノヒカリ)…19日 26日
◎えのきたけ……博多区 西区
◎もやし……南区
◎鶏卵……西区
◎のり……西区

＜一部市内産使用＞
・たまねぎ……西区
・ほうれんそう…西区
・青ねぎ……東区

※生産量との関係もありますが，できるだけ市内産，県産，九州産
今後も努めていきます。
※ホームページでは，加工品原材料等についても情報提供を行って
●「福岡市学校給食　産地」で検索してください。

研修委員会だより（平成29年度）

子どもは、家族とのふれ合いを通して、基本的な生活習慣、人に対する思いやりなど、様々なことを身につけます。保護者の皆様は、毎日、子どもたちとどのように過ごしていますか？

研修委員会は、会員の資質向上、ひいては家庭等の教育力向上を目指し、会員のための学習機会を企画・提供しています。

平成29年度は、月1回程度の定例会で企画・準備をしながら、次のような活動を行いました。

■「親子ふれあい週間」アンケート（2回）

生活習慣について、親子が共に振り返り、考える〝きっかけ〟をつくる啓発活動として実施しました。

①早寝・早起き・朝ごはん（9月）
②Ｋｎｏｗメディア・チャレンジ（1月）

■ＰＴＡ啓発研修大会（12月）

会員の資質向上を目的とする研修会です。普段あまり聞く機会のない著名な講師の先生をお呼びするなど、規模の大きい講演会を開催し、知識のさらなる習得を図っています。

今回は複数の講師陣によるシンポジウムを開催し、防災について学びました。

■いじめ防止標語コンテスト表彰式（3月）

文部科学省後援のもと、標語を全国の小中学校から募り、入賞作品を発表する本コンテストは、子どもたちがいじめについて考える機会の創出を目的としています。研修委員会では、福岡市内の受賞者に対して表彰式を行いました。なお、ＰＴＡ推薦賞については、研修委員会が選考しました。

【平成29年度の活動概要】

06月　定例会（最初）
　[研修大会やアンケートの企画など]
09月　「親子ふれあい週間」アンケート①
　[研修大会の準備、アンケート集計など]
12月　PTA啓発研修大会
　シンポジウム「朝倉の豪雨災害から学ぶ」
　(H29.12.12　福岡国際会議場　3Fホール)
01月　「親子ふれあい週間」アンケート②
　[アンケート集計、PTA推薦賞の選考など]
03月　いじめ防止標語コンテスト表彰式
　(H30.3.29　あいれふ　10F講堂)
04月　定例会（最終）[「研修だより」の作成]

〈注〉　[　]:定例会で実施した活動概要

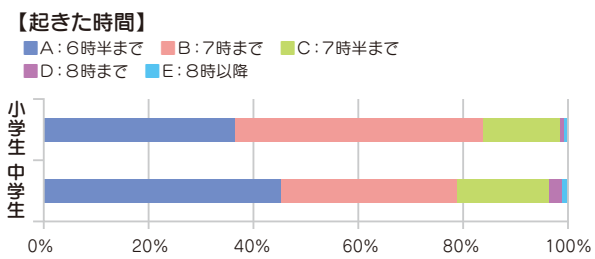
「親子ふれあい週間」アンケート

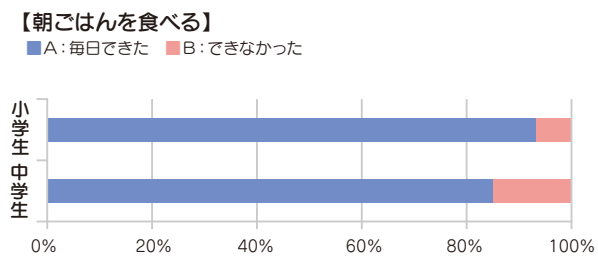
近年、「よく遊び、よく食べ、よく眠る」という成長期の子どもにとって当たり前で必要不可欠な基本的生活習慣が大きく乱れています。また、スマホやＳＮＳなどの使用時間増加に伴う学力低下が心配されています。

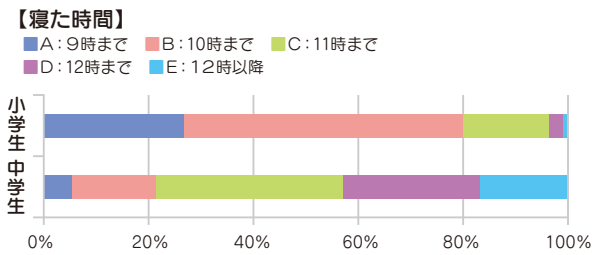
基本的な生活習慣を身につけることは、子どもたちが健やかに成長する基礎であり、家庭が担う大きな育みの一つです。

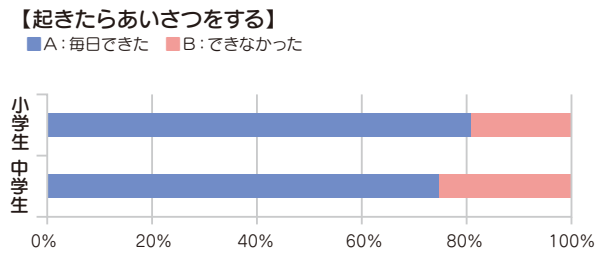
本アンケートは、親子で取り組み、家庭での対話を一層深め、基本的生活週間の重要性を再認識していただくものです（※）。

各単位ＰＴＡから報告いただいた実施報告書をもとに、平成29年度の取り組み状況をとりまとめましたので、ここに報告させていただきます。









①早寝・早起き・朝ごはん（9月）

毎年、夏休み明けに実施しています。

長期にわたる夏休みにより乱れた生活リズムを整えつつ、基本的生活習慣について親子で考えていただきました。

子どもの成長に欠かせない睡眠時間は、小学生低学年で8～10時間、中学生で7時間と言われています。

【児童・生徒から】

▼「早寝・早起き・朝ごはん」、そして「あいさつ」。とても気持ちの良い一週間だった▼一日朝ごはんを食べずに学校へ行ったら、すごくだるかった。朝ごはんはとても大切なんだと実感しました▼記録をとることで自分の生活を改めて知ることができた▼早く寝たら目覚めも良いので続けたい。成長のために早寝・早起きをがんばります。

【保護者から】

▼朝、元気よくあいさつをしてもらい、こちら側も良い気分になりました。ありがとう▼アンケートがきっかけとなり、早寝・早起きができるようになった▼ふれあい週間が終わっても意識して生活していきましょう。

【研修委員会から】

▼早く寝ること、早く起きること、朝食をとること、それは子どもたちの健康にとってとても大切なことです

▼そうとわかっていても私たちを取り巻く環境は厳しく、日々の生活に追われています。特に最近は保護者だけでなく子どもたちも忙しい毎日を過ごしています。

▼だからこそ、この「早寝・早起き・朝ごはん」運動をきっかけに親子で少しだけ意識して生活してみませんか。

▼そして、この運動が基本的な生活習慣を身につける第一歩となれば・・・と願います。

②ｋｎｏｗメディア・チャレンジ（1月）

毎年冬休み明けに実施しています。

このアンケートは、次のことを目的として実施いたしました。

①様々なメディアをよく知ることにより（Ｋｎｏｗメディア）、メディアとのよりよい接し方を考える②家族でメディアの利用時間を確認し、家庭でのコミュニケーションの機会を増やす③規則正しい生活習慣を見直す

【児童・生徒から】

▼新聞を読んでいろんなことを知りました▼テレビを見ないと宿題が早く終わる▼勉強中でもＬｉｎｅの返信をしてしまう▼読書の時間が増えた

【保護者から】

▼この期間だけは気を付けたが継続が難しい▼家族の会話が増えた▼自分で上手にコントロールできる子に育てなければ▼親子で取組みメディアとのかかわりを持つよいきっかけとなった

【研修委員会から】

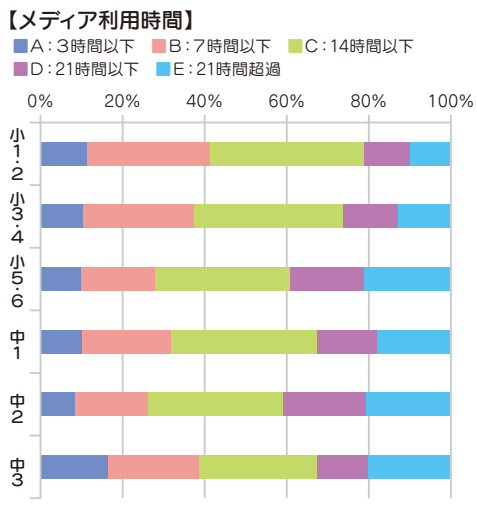
▼メディアのおかげで、私たちの生活は便利になり、必要不可欠なものとなっています。

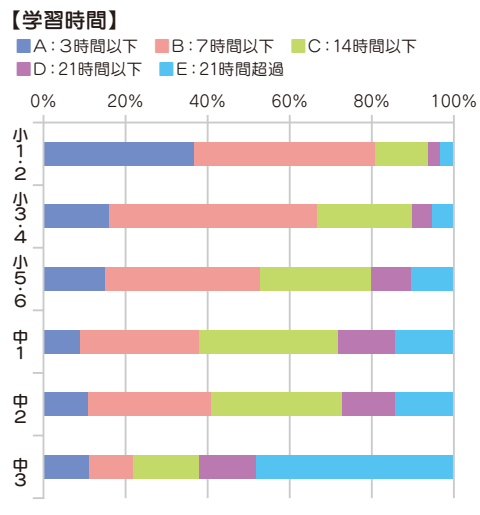
▼もはや、メディアとの関わりを無しには生活ができません。

▼物心ついたときからメディアに囲まれて育っている子どもたちと、保護者とでは、捉え方が異なる状況の中、上手にメディアと付き合っていくことが、子どだけでなく、私たち保護者も求められています。

▼今回のアンケートでは、Ｋｎｏｗメディアチャレンジが、メディアについて考えるきかっけとなったという意見が多くありました。

▼今後も、Ｋｎｏｗメディアチャレンジが、保護者と子どもがともに考えるきっかけづくりの一助となればと考えております。





【研修委員会から】

▼本アンケートの内容は、特別支援学校の家庭には、そぐわない一面があると感じています。自分の家庭を踏まえながら、会員の皆様へ伝えたいと思います。▼【①早寝・早起き・朝ごはん】私の子は睡眠不足や疲労が蓄積すると「てんかん発作」が起こります。そのため、本人が寝たいだけ寝かせます。また、「胃ろう処置」をしているため、朝食は食べられません▼【②ＫｎｏｗメディアチャレンジＪ】支援学校の授業は、普通学校とは異なります。そのため、我が子はＴＶを見て社会を学んでいるのが現状です。また周りの人とのコミュニケーションを行う際には、ｉｐａｄ等を多用します。このように、メディアは我が子にとって欠かせない大切なツールとなっています▼特別支援学校に通う子どもの障がいは様々です。本アンケートについては、その実施方法を単位ＰＴＡや各家庭で判断をし、実態に応じた「親子ふれあい運動」として推進していく必要があると考えています。

PTA啓発研修大会

【演　題】「朝倉の豪雨災害から学ぶ～子どもの命を守るために何ができるのか～」
【場　所】福岡国際会議場
【日　時】平成29年12月12日10時～12時
【参加者】７８８名

テーマ決定までの経緯

研修委員会では、啓発研修大会のテーマを決定するにあたり、会員の皆様のご要望に添えるよう時間をかけて多くの議論を重ねてまいりました。過去のアンケート等を参考に、「子どもたちのやる気」「親子関係」「不登校」「防災・危機管理」など、今を生きる子どもと保護者が直面している多様な視点から意見が出されました。

そしてこれらのテーマについて検討を重ねていた7月、あの九州北部豪雨が発生しました。報道によって被害の甚大さが次第に明らかになるなか、朝倉市立松末小学校において、帰宅できなかった生徒11名が先生や地域の方とともに、2階付近まで濁流が迫る校舎で一夜を明かしたという記事が西日本新聞に掲載されました。

この事実を知った我々研修委員は、未曾有の大水害に学校、保護者、地域の方々がいかに対応していったのかを備えとして知り、学ぶべきであろうと考えました。被災地ではまだ復興が始まったばかりで時期尚早との意見もありましたが、何時起こるかわからない災害に一日でも早く備えていただきたいという思いから、本大会のテーマとして取り上げることとなりました。

水害の傷も癒えない最中、またお忙しいお仕事の合間を縫ってご登壇していただきましたシンポジスト・コーディネーターの皆様に厚く御礼を申し上げます。

講師のおはなし

中川次郎氏

西日本新聞前朝倉支局長。豪雨の取材中、松末小へ避難し、生徒達と一緒に一夜を明かす。

▼行政の役割には限界があるので、自分たちで何ができるのかをしっかり考える必要がある。今回の水害では地域コミュニティがすごく機能していた。もし福岡市のような都市部で同じような水害が起きた場合、全く違う状況になるかもしれない▼報道側としては真実を伝えたいという思いから、子どもたちへの行きすぎた取材があった。つらい経験を思い出させてしまうことにもなるので、子どもたちの様子をよく見て、どこまで取材するのか考える必要がある▼熊本地震の取材で命の危険を感じたが、日常に戻ってしまうとそれを忘れてしまう。被災地とそれ以外の場所では温度差があるのは仕方がないが、日頃から家族で防災について話しておくことが大切。

塚本成光氏

朝倉市立松末小学校校長。学校は川の氾濫により翌朝まで孤立状態となる。

▼迎えにきた保護者に子どもを引き渡したことは正しかったのか？学校に留めておいたほうがより安全だったかもしれない▼学校に留まっている子どもたちの靴を流されないように確保していたことが、翌日の避難で役立った▼水害の翌日から1日2回避難所を訪問して子どもたちの状況の確認を行った。避難所では子どもたちの生活リズムが崩れてしまい、勉強する意欲もなくなっていたため、杷木小学校に間借りして夏休みの宿題などをする寺子屋を行った▼支援を受けるばかりではなく、子どもたちの元気で一生懸命な姿を発信していくことが地域を元気にする。1年生の中には10月後半まで学校へ行き渋る子どももいたが、今は元気に登校している。大人が考える以上に子どもたちにはダメージがあり、回復に時間がかかる▼水害だけではなく、マスコミからも子どもたちを守るべきだった。子どもたちにつらい経験を何度も語らせてはいけない。また保護者自身も心的ダメージを受けていることを自覚して、子どもたちに対処することが必要。

小嶋洋志氏

朝倉市立松末小学校PTA会長。豪雨により自宅が流されるなど被害にあう。

▼仕事で朝倉を離れていたので、停電や携帯電話のバッテリー切れなどにより、次第に家族との連絡手段がなくなっていくことがとても不安だった▼PTAは保護者をまとめていかなくてはならない。水害後、月日とともに報道の内容が「被害」から「復興」に変わっていった。そういった明るい話題を保護者で共有して、一緒に前へ進んでいきたい▼「災害が起きたから何もできない」ではなく、規模を縮小してでも餅つきや文化祭などのイベントは行っていく。それによって子どもたちの笑顔を見ることができる▼大人は生活を回復することに必死になり気付き難いが、子どもたちには水害で受けた見えない心の傷がある。大変なときこそ子どもとゆっくり向き合いたい。

今金　元氏

福岡市危機管理監。元陸上自衛隊陸将補。危機管理に関する専門的・総合的な知識を有する防災のプロ。

▼災害に直面した際、情報を正確につかむことが重要となり、それが安心感を生み出す▼自衛隊や消防が行う救助は時間が掛かるし行き渡らない。まずは個人・家族・コミュニティで行動しないと災害には対応できない▼備えるべき防災グッズは人や家族によって違う。市販の防災セットを買って安心せず、薬などそれぞれの特性によってアレンジする必要がある▼災害時の家族の集合場所を決めておき、日頃からそれを子どもの耳に残しておく。

林田スマ氏

大野城まどかぴあ館長。元RKBアナウンサー。今回シンポジウムのコーディネーター。

▼日頃から隣近所とのつながりを作っておくことが、共助という点から大切▼災害はつらい体験だが、それを乗り越えることによって、親も子どもも強くなっていく学びがあると思う。

参加者からの声

【感想】▼実際に被災した方、取材した方、救助された方の話は非常に重みがあった▼ＰＴＡ活動、地域活動など、普段のコミュニティの重要性を再認識した▼子どもに対して防災意識の共有が甘かったと思った▼シンポジウム形式は、様々な立場からの意見が聞け、また一方通行ではなく、参加者と一体となって聞けたのが良かった
【要望・意見】▼「子どもたちをどう守るか」というテーマで様々な話を聞きたい▼未就園児連れの参加可否を案内に明記してほしい▼土曜日開催も検討してほしい

啓発研修大会を終えて

▼九州北部豪雨により亡くなられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、ご遺族にお悔やみを申し上げます。また被災された方々に心からお見舞いを申し上げます▼「防災」と聞いてＰＴＡとはあまり関連が無いと思う方もいらっしゃるかもしれません。しかし考えてみてください。九州北部豪雨のように平日の昼間に災害が起きた場合、ほとんどの保護者は職場にいて、すぐに我が子のもとへ駆けつけることは難しいと思います。子どもたちの命は学校と地域の方々に委ねるしかありません。その学校と地域、そして家庭の架け橋となるのが我々ＰＴＡの本分です▼今回シンポジストの方々のお話を伺って、松末小学校の児童が全員無事だったのは、日頃のＰＴＡ活動を通じて校区がしっかり繋がっていたからだと強く感じました▼皆様の校区でも「防災」の面からＰＴＡ活動の重要性を再認識していただきたいと思います。

研修委員会　委員長　光安　巖

研修委員会　メンバー（平成二十九年度）

【委員】
★★光安巖（南区柏原小）／★上籠高志（早良区西新小）／●緒方正隆（中央区小笹小）／■野田登美香（博多区席田中）／小島貴文（南福岡特別支援学校）／森千恵（中央区春吉中）／野口直樹（城南区田島小）／原信貴（早良区田隈中）／三木一司（東区照葉中）／末永秀樹（東区美和台小）／彌永卓男（城南区長尾中）／西島勝也（西区壱岐中）／大坂健史（西区壱岐南小）／安田孝之（南区三宅中）／古川大地（博多区板付北小）
☆納屋亮（南区片江小）／☆松下誠（西区能古中）

【市P協担当役員】
古賀伸彦（早良区高取中）／靏田明彦（博多区席田中）

<凡例>★★：委員長、★：副委員長、●：書記、■：会計、☆：校長

福岡市ＰＴＡ協議会　ＰＴＡ活動災害保障制度のお知らせ　安心してＰＴＡ活動を行っていただくために

「ＰＴＡ活動災害保障制度」

（ＰＴＡ団体傷害保険・ＰＴＡ賠償責任保険・受託者賠償責任保険・生産物賠償責任保険）

ＰＴＡ活動中の事故による「ケガ」と「損害賠償責任」を補償します。

※保障制度の詳細については、制度取扱代理店にお問い合せください。
●制度に関するお問合せ先：制度取扱代理店　株式会社コーリン（ＰＴＡ活動災害保障制度事務局）
ＴＥＬ：0120－228-553（通話料無料）（受付時間：平日午前９時～午後５時　土・日・祝日、年末年始を除く）
●制度引受保険会社：AIG損害保険株式会社　損害保険ジャパン日本興亜株式会社

2018年7月現在の内容です。

特別支援学校PTA連合会

平成30年6月23日　福岡市立南体育館
参加者：約800名

レクリエーション大会

福岡市立特別支援学校　PTA連合会レクリエーション大会
つどいつながり　ひとつの輪に！
一緒に遊ぼう！親子ふれあい広場

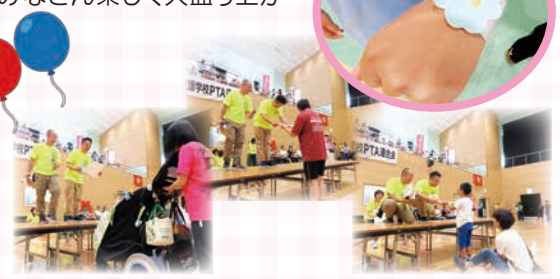
福岡市内8校（南福岡・若久・東福岡・生の松原・屋形原・博多高等学園・福岡中央・今津）の特別支援学校の児童、生徒・保護者・先生が集まり、レクリエーション大会が開催されました。

はじめに、特別支援学校PTA連合会の山口信一郎会長よりご挨拶があり、開会式ではご来賓の福岡市ＰＴＡ協議会の西方俊司会長、発達教育センターの野口信介所長、福岡県レクリエーション協会の佐藤靖典専務理事よりご挨拶がありました。

前半は
大嶋賀代子先生リードによる「みんなで歌おう」
福岡子ども短期大学のお兄さんお姉さんのダンスと体操「忍たま乱太郎」
若久特別支援学校教員・生徒・保護者によるダンス「踊LOCCA」
前半最後には、学校対抗戦による風船リレーが行われました。（1位博多高等、2位生の松原、3位南福岡でした）

レクリエーションブースの紹介、シールラリーの説明があった後は、おたのしみ企画が開始されました。

①心と体を癒すセラピューティックケア②ロケットを作って飛ばそう③ダンス④ボールを使って遊ぼう⑤バルーンアート⑥ミュージックケア⑦新聞紙迷路⑧2本の縄でダブルダッチの8つのブースにそれぞれが自由に参加し、参加後には参加シールを腕時計型の台紙に貼ってもらえます！みなさん楽しく大盛り上がりでした。



閉会式が終わると、参加団体の皆さまによるアーチで見送って頂きました。

あっという間のレクリエーション大会でした。大会に参加していただいた皆さま、本当にありがとうございました。

平成30年度

教育予算要望回答についての意見交換会

平成30年5月15日　福岡市役所

昨年7月に福岡市ＰＴＡ協議会が福岡市教育委員会に提出した、平成30年度の教育予算要望に対して回答書を受理し、それに伴い市P協役員と教育委員会との意見交換会を行いました。

ＰＴＡ広報紙コンクール

福岡市内の小学校、中学校からいただいた多数の応募のなかから、日本ＰＴＡ全国協議会審査基準を基に厳正なる審査を行った結果、下記の広報紙を優秀作品として、全国小中学校ＰＴＡ広報紙コンクールへ推薦させていただきます。いずれも広報紙作りのポイントをしっかり押さえた良い紙面でした。

残念ながら選ばれなかった作品も、各単位ＰＴＡが大切にしている活動や、熱意が伝わってくる紙面が多かったと感じました。今後も活発な活動を期待しております。

小学校	笹丘小PTA	「ささおか」
	田隈小学校父母教師会	「TAGUMA」
	多々良小学校父母教師会	「たたら」
	城南小学校PTA	「じょう☆なん」
	松島小学校父母教師会	「まつしま」
	南片江小学校父母教師会	「やまびこ」
中学校	警固中学校PTA	「ぎんなん」
	梅林中学校父母教師会	「梅林」
	友泉中学校PTA	「ゆうせん」
	照葉小・中学校PTA	「照葉」

編集後記

今号で29年度広報委員会が終了します。私自身、予期せぬ委員長就任でしたが、これも何かのご縁だと思いお引き受けしました。至らない点も多々あったと思いますが、市P協役員・事務局の皆さま、広報委員さんのご協力を頂きながら、どうにか全うする事が出来ました。心より感謝申し上げます。

編集作業の中では記事の校正を何度も行いますが、結果的に、出席した事業の内容はより深く、出席できなかった事業の内容も知ることができ、大変有意義な作業でした。

「ふよう」の発行には、福岡市ＰＴＡ協議会の活動を全会員に広報するという目的があります。「ふよう」をお読みいただくことで、少しでも市P協の諸活動へのご理解が深まったのであれば幸いです。

1年間本当にありがとうございました。

広報委員長　山内宜大

128号モニターアンケート　読者の声

●市P協だからこそできる取材や取り組みなどを知りたいです
●団体表彰・個人表彰がどのような経緯で受賞されたのかが載っているとよかったです。
●朝倉の記事を読んで、何かしら復興に関わりたいと思うようになりました。
●博多高等学園の「五語五心」子どもに読んで聞かせました。
●博多高等学園の「カフェ桐のはな」に行ってみたいと思いました。
●特別支援教育は特別な教育ではなく、教育の根本であると感じられました。
●単P活性化事業によってPTA活動がどう活性化したかの評価が欲しい。
●単P活性化事業で赤ちゃんを抱いている生徒たちの表情がとても良いです
●赤ちゃん抱っこの記事では、命の大切さをどのように学ぶのか関心をもって読みました。
●文字サイズがもっと大きいと読みやすいかもしれません。
●「三行詩入賞作品表彰式」など子どもたちの活躍も紹介されているのが良いと思います。